

## ヨハネによる手紙第一4章19-21節 「神を愛すること」

### 1A まず愛された神 19

### 2A 兄弟への愛 20-21

#### 1B 憎むことの偽り 20

##### 1C 言うこと

##### 2C 目に見えない神

#### 2B 神からの命令

## 本文

ヨハネによる手紙第一 4 章を開いてください、19-21 節を見ていきます。「<sup>19</sup> 私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです。<sup>20</sup> 神を愛すると言いながら兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。<sup>21</sup> 神を愛する者は兄弟も愛すべきです。私たちはこの命令を神から受けています。」

私たちは今晚、「愛している」ということに注目します。愛という言葉の数多く使いながら、しかし、神がみこころとしておられるところの、愛なのか？以前は、「神を知っているかどうか」について何度となく語りました。ヨハネが、「神を知っていると言いながら、その命令を守っていない人は、偽り者であり、その人のうちに真理はありません。」と言っていました(2:4)。私たちが、愛しているという言葉を使う時に、その言葉が真実に基づいているのかどうかを確認していきたいと願います。

### 1A まず愛された神 19

<sup>19a</sup> 私たちは愛しています。

この言葉は、18 節から続いています。「愛には恐れがありません」と言って、事実、私たちは恐れがなく、愛しています、と続いています。興味深いことに、この言葉は「愛します」というこれから愛しますという意志ではなく、すでに現在進行形で、愛していますという状態を話しています。事実、私たちは真実と行いをもって愛しています、という意味合いがあります。これは、この手紙を呼んでいる読者である、教会の交わりからはなれずに、神の命令、キリストの命令に従っている兄弟たちを励ましているのでしょう。また、「私たち」という言葉には、主の使徒たちが事実、愛の共同体を保ってきたのだと言っているのだと思います。

使徒たちの間で、また使徒たちが教会に対して愛しているという証しがありました。パウロやバルナバは、異邦人に対して福音を語っていたのですが、ユダヤには多く、信者として、そのことをよく思っていない人々がいたのに、パウロによると、「私に与えられたこの恵みを認め、柱として重んじ

られているヤコブとケファ(ペテロ)とヨハネが、私とバルナバに、交わりのしるしとして右手を差し出しました。」と言っています(ガラ 2:9)。ペテロとパウロは、性格も違うし、出自も漁師とエリート教育を受けた宗教者という違いもあるし、またユダヤ人への宣教と異邦人への宣教という使命も異なりました。それにも拘らず、ペテロは第二の手紙で、パウロの手紙を推薦しています。「Ⅱペテ 3:15 また、私たちの主の忍耐は救いであると考えなさい。愛する、私たちの兄弟パウロも、自分に与えられた知恵にしたがって、あなたがたに書き送ったとおりです。」愛する兄弟とパウロのことを呼んでいます。

けれども、こうした使徒的な権威をないがしろにして、離れていく者たちがいたのです。その常套文句が、「神を知っている」「神を愛している」という、言い方は良くないですが「神逃れ」なのです。神という名を使いさえすれば、霊的な行為であり、正当化できてしまうのです。愛の共同体から、神を愛しているという理由で離れていくことの矛盾、その過ちをヨハネは明らかにしています。

**19b 神がまず私たちを愛してくださったからです。**

ヨハネが使っている「愛している」というのは、ギリシア語で、アガペーの動詞であります。これは、無私の愛、自分を犠牲にしても献げる愛であり、見返りを求めない愛です。このような愛で愛することは、唯一、神が愛であり、神が私たちを愛してくださったから、その応答として与えられるのです。私たちの神への愛は、あくまでも神が私たちを愛し、その愛に圧倒され、神にひれ伏し、言い方を変えれば、神が、その命令に従う私たちを通して、ご自分の愛を流される、と言ったらよいでしょう。自分自身から出るものではなく、神から出るものです。

神がまず愛しされて、それで私たちが神を愛することができる、応答することによってのみ愛することができます。「4:10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」神がイスラエルを選ばれたのも、一方的な彼らへの憐れみでした。「申 7:7 【主】があなたがたを慕い、あなたがたを選ばれたのは、あなたがたがどの民よりも数が多かったからではない。事実あなたがたは、あらゆる民のうちで最も数が少なかった。8 しかし、【主】があなたがたを愛されたから、またあなたがたの父祖たちに誓った誓いを守られたから、【主】は力強い御手をもってあなたがたを導き出し、奴隷の家から、エジプトの王ファラオの手からあなたを贖い出されたのである。」こちらに愛される何かを持っているわけではない。むしろ、愛されないものであれば無数にある。御子を宥めのささげ物にしなければならないほど、神は私に御顔を背ける理由がいくらでもある。しかしそれでもなお、神は愛されました。

そもそも、聖書は、「神は初めに動かれて、人はそれに応答する。」という世界を描いています。「はじめに神が天と地を創造された。」から始まり、神が行われたことがあり、そこに人が関わるよ

うにされます。神の言われていることに応答する人たちによって、神の証しが立てられ、神に栄光が帰されます。神の恵みの主権があるのです。ところが、アダムが罪を犯してから、「自分でいちじくの葉で恥を覆う」という、自分の行為に頼るようになりました。それで、まだ神を知らない、未信者だけでなく、教会においても、「これこれをすれば、神がこのようにしてくださる。」という人の行為による神の好意の考え方が根強いです。私たちがたくさん祈ったから、神が祝福してくださった、というように。

けれども、聖書は徹底して、神が一方向的に憐れみ、恵みを与えられるので、私たちは祝福されて、そして私たちはその召しに応答して、歩みます。エペソ人への手紙を、その全体を読んでみてください、1章から3章まで、神が「キリストにあって、天上にあるすべての霊的祝福をもって私たちを祝福してくださったことを書いています(1:3)。そして4章に入って、「あなたがたは、召されたその召しにふさわしく歩みなさい。(4:1)」と勧めるのです。私たち人間は、どうしても4章以降に、こうこうしなさいという歩みばかりに注目します。それは、分かりやすいし、目につくからです。もちろん、しっかりと目に留める必要があります。けれども、その歩みの原動力は、神がキリストにあって私たちにしてくださったということを知るところあり、1章から3章をしっかりと見つめるところから出て来るものなのです。しかし、神が恵みによってして下さるところには、自分の功德は一切、認められない。自分のことは差し挟めない。だから、きちんと受け入れてないという問題があります。

愛するという命令に戻りますが、イエス様が互いに愛し合いなさいと言われたことも、あくまでも、イエス様が私たちを愛されたというところに対する応答です。「ヨハ 13:34 わたしはあなたがたに新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」

## 2A 兄弟への愛 20-21

### 1B 憎むことの偽り 20

#### 1C 言うこと

<sup>20a</sup> 神を愛すると言いながら兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。

言っていることが、その人がそのことを行っている保証とはならないということです。ヨハネ第一には、「言っていながら、これこれをしているのであれば、偽っている。」としている言葉が数多く出てきます。そして兄弟を憎んでいることについては、既にこう話していました。「2:9 光の中にいると言いながら自分の兄弟を憎んでいる人は、今でもまだ闇の中にいるのです。」2章9節では、グノーシス主義に影響された者たちが、「光」という言葉を使って、光を受けているかどうか、ということとを教えとして持っていたからです。ところが、光を受けたはずの者たちが、教会の交わりから離れていく、仲間としての絆を断ち切っていくことをしていきました。そんなことをしているのならば、その光というものは偽りで、まだ暗闇にいるのだ、と言っています。

ここでは、「**神を愛する**」という言葉で言い逃れしているのです。神を愛しているから、同じ信仰を持つ兄弟たちから離れる、憎む、ということをする事さえできるのです。イエス様が、兄弟ではないですが、両親に対して、敬うことを、神への献げ物を理由にして断る言い伝えを取り上げました。「マルコ 7:9 あなたがたは、自分たちの言い伝えを保つために、見事に神の戒めをないがしろにしています。」

ここでヨハネが、同じ第一の手紙で、イエスを神の子キリストと信じること、また告白することを強調しています。「4:15 **だれでも、イエスが神の御子であると告白するなら、神はその人のうちにとどまり、その人も神のうちにとどまっています。**」それでは、信じ、告白するけれども、兄弟は憎んでいるということが、あり得るのか？という問いに対して、答えとしての鍵は、「とどまる」です。信じるということ、単なる信条としてではなく、共に住むという意味の留まるという中で行っているのです。信じるということは、知的に同意すること以上に、自分の全てを相手にお任せすることです。留まるということです。こういった関係性からは、必ず神のいのちが流れます。そして、実が結ばれるのです。ぶどうの木の喩えをイエス様が弟子たちに語られているように、とどまって結ばれていれば、必ず枝から多くの実が結ばれるのです。イエス様から離れては、何もすることができません。ですから、明らかに言っていることが、行っていることと異なっているということは、そもそもがイエス様に留まっていない、神が留まり、自分が神に留まっているという関係がないということです。

## 2C 目に見えない神

**20b 目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。**

これは、とても強い言葉、明瞭な言葉ですね。「小さなことさえできないのに、大きなことなどできない」という論法です。目に見える存在さえ愛せないのに、どうして目に見えない存在を愛せるのか？ということです。

イエス様が、カペナウムでみことばを語っておられた時に、中風の人を運んできた人々がいました。家の中が混んでいたのも、なんと家の屋根をはがして寝床を降ろしました。その時に、イエス様は、「子よ、あなたの罪は赦された。」と宣言しました。そこにいた、律法学者たちは、「神おひとりのほかに、だれが罪を赦すことができるだろうか。」と心の中で思いましたが、イエス様は、「中風の人に、『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて寝床をたたんで歩け。』と言うのと、どちらが易しいか。しかし、人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたが知るために。」と言われて、彼を癒やされたのです。(マルコ 3:1-6) 罪を赦すということは、神のみにしかできないこと、権威あるわざです。けれども、目に見えない。だから逆に、言うだけで済んでしまうことです。そして彼を癒やすことは目に見えること。これも困難ですが、けれども、罪を赦すということは神にのみできることであり、次元が違います。イエス様はそこで、罪の赦す権威を持っていることを示すために、この人を立ち上がらせたのです。目に見えるものをもって、目に見えない最も難

しいことを証しされたのです。

神を愛することも同じです。目に見える兄弟を愛するところに、神への愛が示されます。

## 2B 神からの命令

**21 神を愛する者は兄弟も愛すべきです。私たちはこの命令を神から受けています。**

この命令とは、イエス様が、互いに愛し合いなさいと言われた命令です。神が兄弟を愛しなさいと命じられているのですから、神を愛するならこれを守るはずなのです。

ここで愛するとは何か？を考えたいと思います。イエス様が弟子たちに言われました。「ヨハ 14:23 だれでもわたしを愛する人は、わたしのことばを守ります。そうすれば、わたしの父はその人を愛し、わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます。」「ヨハ 15:10 わたしがわたしの父の戒めを守って、父の愛にとどまっているのと同じように、あなたがたもわたしの戒めを守るなら、わたしの愛にとどまっているのです。」戒めを守ることが、イエス様の愛に留まっていることです。愛しているということは、命令を守ることによって示されます。愛とは、相手への敬いがあります。相手の願うことを、自ら行いたいと願い、それに従うのです。忠誠心とも言えるでしょう、自分のためにいのちを捨ててくださったほどの方に仕えたい、従っていきたくと願います。そして事実、従うのです。

ですから、愛とは感情ではありません。感情は伴いますが、それが本質ではありません。自分を無にして自分自身を従わせることです。自分自身を捨てることです。しかも、愛されたから、その安心感からそれを行います。恐れから、罰せられるから行うものではありません。言われなくとも、むしろやめてもいいと言われても、それでもやるのです。ですから、そこには自分の感情や思い、考え以上に、いや感情や思いが愛することを拒んでいても、あなたが言われているのですからという理由で、愛します。

思い出すが、コリー・テン・ブームと言う方の証しです。「私の隠れ場」と言う本の著者ですが、ホロコーストの時に、ユダヤ人を家に匿ったことで政治収容所に入れられました。戦後、ドイツに行きました。そこに、元親衛隊人が赦しを請いに来た、と記憶しています。彼女は、もちろん強い憎しみの思いがありました。けれども、キリスト者として愛することを選んだのです。握手の手を伸ばしました、すると、電流が走ったように、感電したように、愛が体に走ったそうです。その人を愛する愛が流れ出てきたのです。兄弟を愛すること、それは神の命令です。命令は、自分からできることではないのです。神に任せること、自分の悟りに頼らないことです。その時に、神に留まっている自分から、神の愛が流れ出ます。